

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ビビッド六甲		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日 ～ 2025年 1月 26日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 5人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 22日 ～ 2025年 1月 22日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に応じ、計画を作成し、様々な運動に取り組み、個別・小集団の療育を組み込んでいる。	・こどもの特性を把握するために、留意事項や療育取組状況を日々更新し、リアルタイムに確認できるようにしている。 ・こどもの状況に応じたサポートを行い、個別、小集団の療育に取り組んでいる。 ・定期的に療育会議を行い、PDCAサイクルでプログラム内容の改善を行っている。	・シュミレーションを実施し、スタッフが自分の課題問題点を把握できるようにする。
2	連絡事項やこどもの日々の様子を保護者とスタッフがリアルタイムに共有できている。	・スマホのアプリ等のツールを利用し、保護者と連携しやすい環境を整えている。 ・ラインワークスを導入し、事業所内や組織内でもリアルタイムに共有できるようにしている。	・共有している情報をもとにどのように対応するかなど、報連相の質、正確性、効率性を高める取り組みを行う。(風通しの良い風土を作る)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者間の交流や保護者への研修の機会が少ない。	・交流の目的や研修内容の設定など、保護者のニーズに合わせる必要がある。 ・スタッフが保護者交流のファシリテーターとして、役割を担うためのスキル獲得や、研修内容を熟知する必要がある。	・保護者に面談などを通して、ニーズを聞き取り、参加しやすくなるような内容を決める。 ・スタッフの勉強会や研修を行い、スキルアップできるようにする。
2	事業所内の環境や活動について、保護者に伝える際に、印象付けのような工夫や配慮が足りない。	・スタッフによって伝え方やニュアンスが変わってしまう。 ・言葉だけで伝えて、どのように理解されているかを確認していない。 ・実際に事業所を見てもらう機会が少ない。	・保護者が来所しやすいように日程調整を行い、実際に見てもらうようにする。 ・写真を見てもらうなど、イメージしやすいように工夫する。 ・見学会や交流会を開催する。

事業所名 ピピッド六甲

公表日 2025年2月28日

利用児童数 2025年1月 14人

回収数 5人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3	2			保護者が中を見たことはありません。	保護者面談や保護者会などを開催し、事業所を見ていただける機会を増やしていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	3	2			職員の方の人数を把握できていないので。	契約時や見学時にお伝えするようにする。また、送迎時や保護者面談の日程を調整しスタッフと会話する機会を増やし安心して頂けるようにする。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3	2				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4	1				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4	1				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4	1				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	2	2			
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	1	2			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	5					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		1	4			
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2	3				
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	2	3				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5					

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	3				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	2				
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2	3				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3	2				
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	5					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	5					
	29	事業所の支援に満足していますか。	4	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ビビッド六甲		2025 年 2 月 28日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		人数にあったスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		利用人数や特性に考慮し人員配置を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		絵カード等を使いわかりやすくなっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃の時間を療育の中で設けて児童が気持ちよく過ごせるようにしている。 最終チェックはスタッフで行い清潔感を保てている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	個室を使えるように整理する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		1日の業務のルーティンに基づき業務に取り組み、全員がラインワークス(職員間の報告・連絡・相談のチャットアプリ。以下ラインワークス)で報告を行い、気づきや提案等をしやすい環境を整えている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケートを実施し、面談時に聞き取れなかった希望や意見を集約している。アンケート結果をもとに、事業所会議を行い改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期面談を行い、具体的な業務改善の項目をスタッフと話し合い、目標設定をしている。その内容をもとに事業所会議を行い改善している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		完全な第三者ではないが、グループ内の各事業所担当者が集まり、PDCAサイクルで業務改善に努めている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月、グループ内でオンラインまたはオフラインの研修を行っている。また、必要に応じて外部研修を受講する機会も確保している。	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		支援プログラムはあるが公表出来ていない。3月中旬に公表予定である。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントツールを活用して、児童や保護者との面談内容や普段の様子を記録、分析している。その上で計画作成を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		面談には、児童発達支援管理責任者とともにスタッフも同席し、計画案の一部を提案している。計画作成の過程に全職員が参加する機会を作ること、共通理解できる環境を整え、担当者会議で計画内容の検討を行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画作成の過程に全スタッフが関わるようにしており、支援計画の内容は共有されている。支援する際には、留意事項等をラインワークスで共有し、計画に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		ハグ（支援管理に活用しており、保護者との連絡にも使用している支援ツールアプリ。以下ハグ）のアセスメントツールを利用してアセスメントを行い、職員全員がわかるように共有している。また、日々の気づき等については、ラインワークスを用いて情報共有している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインについては、スタッフが理解を深められるように、毎月勉強会を行っている。そのうえで、担当者会議で意見を出し合いながら必要な項目が漏れないように支援内容を決定している。	

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムの立案については、グループ内で担当者を選出し、会議をもとに立案している。事業所内では、決められた内容をもとにその日の児童の特性、状態に合わせた活動プログラムを作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		1か月に一回会議を開催し、現在のプログラムの状況の確認や課題、問題点の改善や新たなプログラムについて打ち合わせを行い工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		支援計画に集団活動と個別活動の内容を入れており、日々の活動プログラムも個別・集団活動に取り組めるように支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前にタイムスケジュールや役割分担、活動内容についてラインワークスで共有し、連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		ラインワークスで当日についての情報共有を行い、口頭で話し合った内容も全スタッフが振り返りや気づいた点を共有できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援に関してラインワークスで記録を取り、その内容について検証し、改善点を公表して、次の支援につなげるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月に一回モニタリングと保護者との面談を行い、計画の見直しを検討し、必要に応じて変更している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		集団運動や療育プログラム、施設内イベント、施設外イベントを通じて遊びや外出、集団活動、地域交流を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		日々の活動プログラムの中で、児童が選択できる機会を設け、児童同士でコミュニケーションをとり、決定できるように工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議や関係機関との会議には、事前に情報収集・整理してスタッフ全員が児童の状況を理解したうえで、参加できるようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		協力医療機関と協定を結んでいる。その他各関係機関については、積極的に連絡を行い、情報共有やアドバイスを貰うなど、連携して支援を行う体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		必要に応じて学校から行事予定をもらったり、下校時刻の確認、迎え遅延の連絡などを行い、送迎トラブルが発生しないよう連絡を適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		就学前の支援計画等保護者からもらうようにしている。今後、保護者の承諾を得たうえで、就学前に利用していた各関係機関と直接、情報共有できるようにしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		学校卒業後の障害福祉サービスへの移行に関する課題を保護者と共有して支援を行っている。今後、その内容について、移行先事業所と積極的に情報共有できるようにしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		今後、必要に応じて助言や研修を受ける機会を設けていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		今後、放課後児童クラブや地域のイベントに参加する機会を設けて交流できるようにしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		今後、参加するようにしていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎の際に保護者と情報交換をしたり、ハグのチャット機能を利用することで、状況や課題について共通理解を図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		今後、家族等が参加できる研修の機会を設けていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		重要事項(運営規定)、支援内容、利用者負担等に関しては、契約時に説明を行っている。支援プログラムについては3月公表予定のカリキュラムをもとに説明を行う。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		ハグのチャット機能を利用して、いつでも話しやすい環境を整えている。また、保護者とは定期的な面談を行っている。今後、児童と面談する機会を作り、気持ちや意思を確認できるようにする。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		ハグを用いていつでも支援計画の内容が確認できるようにしている。それをもとに説明を行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があった場合は、事業所内で情報を共有し、対応する内容について打ち合わせを行い、必要に応じて面談や送迎時直接会話、チャットで助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		今後、保護者の交流の機会を設けていく。また、必要に応じて兄弟が交流できる機会を設けて行く。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制は整え、契約時に説明している。苦情があった場合は、事業所内、組織内で共有し、対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ハグの活動記録で行事予定とその概要を公表し、保護者がいつでも確認できるようにしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		パソコンやスマホのハグについては、IDとパスワードで保護しており、書類については鍵付きキャビネットで保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童には、絵カードやマカトンサイン等、様々なツールを利用して意思の疎通の配慮をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		今後、事業所でおこなっているイベント予定などが近隣の地域住民にわかるようにしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		マニュアル作成しスタッフへの周知は行い、計画に基づいて訓練をしている。保護者への周知は、面談等を通じて行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、計画に基づいて訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者からの連絡をもとに服薬や予防接種、てんかん発作等、重要事項について確認し、スタッフ全員が情報共有できるようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーのある児童については、活動内容に応じて、保護者を通して適切な対応をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づいて研修や訓練、点検等を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		児童の安全確保に関して、安全計画に基づき訓練等を行っている。今後、家族等との連携が図れるよう面談を通して家族等に周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットについては、毎月会議で共有し、対策の有効性も会議の中で検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		計画に基づき研修を行っている。また、ガイドラインを策定し、入社時に周知している。ガイドラインを改定した場合は、スタッフ全員に周知している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		対象となる児童がいないため実施していない。	